

事業の自立を促す助成金制度を目指す

笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団(SSF)では、「日本のスポーツを元気にする!」を合言葉に、地域の運動・スポーツ活動(事業)に対する助成制度「SSFスポーツエイド」を実施しています。

この制度は、助成金の活用を通じて事業の自主運営につなげることを最終的な目標に設定しています。なぜなら、助成金は、未来永劫、継続的に支援を受けることはできない財源であると考えられるからです。

助成金は、クラブ・団体の活動(事業)を支え、その運営を充実・発展させるための一時的な財源としては非常に有効です。しかし、当初から助成金に依存した事業の企画・立案や参加料(会費)設定は、支援終了時には、助成金に代わる財源の確保が無い限り、その事業は予算規模の縮小から事業規模・内容の縮小へと連鎖し、以前と同じ事業の質を保てなくなります。その結果、参加者の減少や事業の継続が危ぶまれるなどの問題に進展する可能性が高くなります。

助成金を活用する上では、事業を実施する際に「不足している予算の補填」という考え方ではなく、あくまでも「事業の質の向上」と「事業の自主運営」につなげるための財源であるということを、クラブ・団体の皆様には認識していただきたいと考えています。

1. 団体の体力に応じた事業計画

事業を開催する上では、「参加者からの参加料収入」と「団体自己資金」の2つの資金による予算の組み立てが必要です。言い方を変えると、獲得できる参加料収入と負担できる自己資金の規模に応じた事業規模、事業内容を計画する必要があります。これは、継続的、安定的に事業を実施するためにはとても重要な考え方の一つだと思います。

参加者のニーズに合致し、参加者の満足度が高められる事業内容になっているか否かという評価を常に意識し、事業内容の充実、事業規模の拡大を図る状況に達した時点で初めて、助成金を活用することを考え事業計画を練っていただきたいと思います。

2. クオリティの高い事業へとステップアップを図るための助成金

地域において事業を実施・展開する場合、参加者(会員)のニーズに合致した事業、参加者(会員)の満足度を高められる事業をいかに実施(提供)できるかが、参加者の獲得に大きく影響してきます。

より多くの参加者を獲得することは、クラブ・団体にとっては非常に重要で、参加料や会費といった収入(財源)の確保につながり、充実したクラブ・団体運営へと導きます。

助成金を有効に活用すれば、質の高い指導者の確保や使用備品・用具の充実、設備が整っている環境(会場)の確保などで事業の質が高まり、より多くの参加者獲得を可能にする事業へと、さらにステップアップすることができるでしょう。

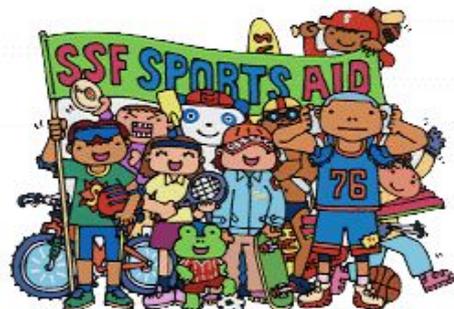
先述のとおり、まずは団体自己資金と参加料(受益者負担)収入を中心に考え、開催可能な範囲による事業内容を検討し、助成金に依存することなく事業へ着手することが望まれます。

3. 助成金の依存度を段階的に下げる資金計画

SSFスポーツエイドでは、継続的に支援を行う事業(約2~3年)に対して、段階的な助成金の減額措置を行っています。これにより、事業に対する助成金の依存度を段階的に下げ、最終的に助成金が無くとも事業が実施できる方向へと導きます。

クラブ・団体が事業計画(収支含む)を企画・立案する際には、助成金を活用してどのようなスケジュール(期間)をもって事業の質を高めていくのかを明確に打ち出す必要があります。

合わせて、助成金の依存度を下げながら、それに代わる財源をどのように確保するのかについても検討することが求められます。この点については、事業の質に見合った参加料設定を考え、時には値上げをすることも意識する必要があると考えます。



4. 積極的な新規事業立ち上げ時に活用する助成金

既存事業では獲得できない新たな会員層の獲得や、会員（参加者）ニーズへの対応を目的に新規事業を計画する場合、助成金を積極的に活用することはとても重要で有効な手段であると思います。

新規事業については過去の実績が無い場合、助成側（SSF）としては「投資」的な考え方で助成金の交付を検討する場合があります。

申請者は、その事業の「必要性」、「求めている成果」について、申請者の考えと熱意を「新たな提案」として具体的に提示した上で、「助成金の必要性」を積極的に助成側（SSF）へ働きかけることが重要であると考えます。

以上、助成する側としての笹川スポーツ財団の考え方、捉え方を述べました。事業の企画・立案、また、助成金申請の際の参考にいただければ幸いです。

【地域のスポーツ活動を支える助成金制度

「SSFスポーツエイド」

SSFスポーツエイドは、スポーツの普及事業を支援する『スポーツエイド』と、水辺のスポーツの普及事業を支援する『ウォータースポーツエイド』の2つの助成制度に分かれており、スポーツ団体が行う大会事業、教室事業等の運営経費の一部を支援しています。

◆対象事業：2010年4月1日（木）～2011年3月31日（木）に実施される事業

※日本スポーツ振興センターの助成金（スポーツ振興くじ助成金等）の他、各省庁、各公営競技等の補助金・助成金を受けて実施される事業は、助成の対象とはなりません。

◆対象団体：規約・会則等の取り決めがあり、適切な経理処理ができるスポーツ団体
※法人格の有無は問わない。

◆申請方法：所定の「交付申請書」に必要資料を添え、申請受付期間内に提出

◆申請期間：2009年12月1日（火）～2010年1月31日（日）※当日消印有効

■スポーツエイド

- ①スポーツ団体が行う活動支援助成（助成限度額：100万円／補助率：80%以内）
- ②スポーツ用具・備品配備助成（本助成は、助成金の交付ではなく「スポーツテント」を配備）
- ③SSFスポーツプロジェクト
 - (1) スポーツプログラム（助成限度額：200万円／補助率：90%以内）
※通年プログラム
 - (2) スポーツキャンプ（助成限度額：100万円／補助率：90%以内）
※3泊以上のスポーツキャンプ

■ウォータースポーツエイド

- ①ウォータースポーツの普及・安全を目的とした事業活動への助成
（助成限度額：200万円／補助率：90%以内）
- ②普及・安全用具の配備助成（本助成は、助成金の交付ではなく下記のいずれかの物品を配備）
 - (1) ウェットスーツ&ライフジャケット
 - (2) スポーツテント
 - (3) 自動対外式除細動器（AED）
- ③SSFウォータースポーツプロジェクト
 - (1) 水辺に親しむ体験学習プロジェクト（助成限度額：200万円／補助率：90%以内）
 - (2) 水辺の拠点づくりプロジェクト（助成限度額：200万円／補助率：90%以内）

▼詳細は笹川スポーツ財団ホームページを参照
<http://www.ssf.or.jp/>

（担当）笹川スポーツ財団業務部
スポーツエイドチーム
ウォータースポーツエイドチーム